

●市庁舎建て替えは白紙にして耐震化・大規模改修に！

その一方で、117億円(別館含まず)という巨額の予算で市庁舎の建て替え計画が進められています。現在は「コロナ禍が収束するまで延期」との方針を示していますが、コロナ禍の経済的影響に鑑みれば、あと数年はかかることが予想されます。それまでに大震災が起きたら大変です。市は建て替えの理由に「防災拠点化」をあげていますが、耐震性があれば「防災拠点化」できるのです。しかも、

建て替えでなければ国の緊急防災・減災事業債が適用され、地方債の充当率100%で元利償還金については70%を基準財政需要額(地方交付税として扱われる額)に算入されるので、格安でできます。「市庁舎建て替えは白紙にして耐震化・大規模改修に計画を変更し、その余力をコロナ対策費に充てるべきだ」と桜井さんは訴えています。

●コロナ禍だからこそ、徹底して市民の立場に立つ桜井さんを応援しましょう！

桜井さんは記者会見で「コロナ禍で多くの市民が苦しんでいる。弱者支援へ財政再配分」を強調

しました。コロナ禍だからこそ、徹底して市民の立場に立つ桜井さんを応援しましょう！

桜井さん、年末宣伝行動でも奮闘！

大晦日も奮闘！12月31日にも市内各駅前を廻り、3つの市政ビジョンなどの掲載ビラを配布したり、駅頭演説で「民意不在の現市政を市民参加型の市政に変えなくてはならない」と市民に訴えました。



●八千代台駅西口で対話



●八千代緑が丘駅前デッキ



●八千代中央駅

桜井よしのりさんの **市政ビジョン**

Vision

①憲法を活かし、平和・人権を守り、市民の暮らしに寄り添う市政

市政の主役は市民。行政も議会も市民の代弁者であるべき。憲法を活かし、平和・人権を守る立場をバックボーンとして、地方自治と暮らしに活かす。市民の暮らしに寄り添う市政を实践する。

②市民合意を基本とする市政

歴代市政が行う施策において特徴的なのが事後承諾主義であり、アンケートやパブコメ等も行うがアリバイ作りにすぎず検討材料にさえしていない。一方通行ではない市民合意を基本とする市政運営を推進する。そのために市民と行政との架け橋となる「八千代市市民協議会」を設立して行政の市民参画を実現する。

③市民への情報公開と課題を共有する市政

いま、八千代市で何が起きているのか。何が問題なのか。市民には知る権利がある。しかし、市民に提供すべき情報公開が極めて不十分であり、ましてや行政と市民との共有ができていない。情報公開と課題の共有を徹底する。

●発行：市民が主役の市政を実現する会 ●発行日：2021年1月7日

ホームページへ
アクセス！

●連絡先：090-6473-3172(三田 登) ●ホームページ：<http://yachiyo-syuyaku.net>

